

研究 報告

野生イノシシの成幼獣の違いと餌の配置が箱わなへの誘引に及ぼす影響および仕掛けの位置がわな作動に及ぼす影響

愛知県農業水産局農政部農業振興課野生イノシシ対策室 つじ 辻 い 井 おさむ 修

はじめに

農作物被害対策のためのイノシシ捕獲では、警戒心の強い個体を生み出さないことが重要であるとされる（環境省自然環境局，2014；野生鳥獣被害防止マニュアル企画編集委員会，2018）。しかし現場で広く使用されている箱わな（以下「わな」という。）では、幼獣（当年産個体）だけが捕獲されるケースが多く（石川ら，2015；環境省自然環境局，2017），そのことが母イノシシがわなの危険性を学習する原因となる。そのため、母イノシシと幼獣と一緒に行動している時期はこれらの同時捕獲が望ましい。しかしその場合、誘引が容易な幼獣がわなに侵入するようになってからも警戒心の強い母イノシシの誘引のためにわなの管理を続けなければならない。捕獲までに要する日数は必然的に長くなる。結果として幼獣さえも捕獲されないケースも想定され、捕獲従事者の意

欲が損なわれる懸念がある。そのため、わなへの誘引状況の観察結果に基づいた管理方法が示されれば、効果的な捕獲に結びつくと考えられた。

そこで2018年3月16日から9月13日までの182日に渡り、愛知県農業総合試験場（長久手市岩作三ヶ峯）北側に隣接する山林の林縁部に、大型獣捕獲用箱わな（目合い100mmワイヤーメッシュ、黒色塗装、幅100cm、奥行300cm、高さ100cm）を1台設置し調査を行った（図-1）。その際、わなには複数個所にわなの扉が落ちる仕掛けを施した上で扉はストッパーで固定し、わな付近および内部にイノシシを誘引するための米ぬか（配置箇所当たり3l）を設置した。

また、イノシシのわなへの誘引状況を観察するためにブラックLEDフラッシュの自動撮影カメラ（BMC社製SG560P8M、作動後次にセンサー感知するまでのインターバルは120秒に設定）を1台、わなの真横4mの



図-1 調査に使った大型獣捕獲用箱わな

Effects of Age and Bait Layout on the Attraction to Box Traps and those of Trigger System on Capture of Wild Boar (*Sus scrofa leucomystax*). By Osamu TSUJII

（キーワード：野生イノシシ，箱わな，捕獲，餌誘引，成獣と幼獣）

前 愛知県農業総合試験場普及戦略部